



平成二十八年四月二十一日

皇紀2676年
(西暦2016年)
第122号

発行：淀姫神社社務所
〒859-4501
松浦市志佐町浦免632
TEL・FAX 0956-72-0653

大変な災害が起きました

熊本で大きな地震がありました

これを書いてるのは四月二十一日です。

四月十四日夜、熊本県熊本地方でマグニチュード6.5(最大震度7)を記録した地震が起きたあと、同16日未明にマグニチュード7.3(最大震度7)の大地震が起きました。

熊本地方から阿蘇にかけて、そして大分までに及ぶ広範な地域では、断層のずれによる地震が頻発しています。また、直後から激しい雨に見舞われるなど、予断を許さない状況がずっと続いています。

この地震によって亡くなられた方は数十名のほり、被災された方はまだ数が把握できないほど多数にのぼっています。

この震災は現在進行中であり、今後どのように推移するかわかりませんが、被災され避難されている方々が、一刻も早く平穏な日常を取り戻されることを心よりお祈り申し上げます。

陳腐な言葉しか出てきませんが、いまはそれを祈ることよりほかできません。

季節の言葉あれこれ

今回もまた「季節の言葉あれこれ」ということで、この季節にちなんだ言葉をお届けしたいと思います。

【初夏】(しよか)

「初夏」は、文字通り「夏の初め」の季節を指し示す言葉です。

また、暦の上では旧暦四月のことです。現在使われている暦でいえば、五月上旬から六月上旬までが「初夏」となります。

四季をさらに細かく分けた「二十四節気」でいうと、「立夏」の日から始まり、同じく「芒種」の前日までが「初夏」と言い表される期間です。

今年の「立夏」は、5月5日になります。「初夏」という言葉が使われることになるのは、この日からです。

「初夏」という言葉は、季節のあいさつにも使えます。手紙などに一筆次候の言葉をしたためる際には、「初夏の候、いかがお過ごしでしょうか。」などとします。これだけでも、ちよつとよい雰囲気になります。

【麦秋】(むぎあき)

旧暦四月の異称です。また、「麦の秋」ともいいます。秋のお米の収穫時を「米秋」(こめあき)とも称しますが、それと対になる言葉です。

ものの本に拠りますと、「あき」という言葉は百穀百果が成熟するときのことで、従って収穫の時期を示す言葉にも使われるそうです。

このことからわかるように、「秋」とは、もともとは収穫を祝う祭神に関係した言葉であり、季節の「秋」の意味は、そこから生まれたものだということもいわれています。

現代語で使われている「秋」という言葉と、口語(昔の言葉)で使われている意味は若干違うようです。

このところ、天気の方が先んじて「5月並み」になっていたりするので、すっかり初夏の気分になりそうですが、よくよく調べてみるとこのような言葉でした。美しい言葉なので、ちゃんと使ってみたいですね。

淀姫神社インターネット公式サイト「淀姫神社WEB」 <http://yodohimejinja.com/>

各種最新情報・blog「淀姫日記」にて「お祭りレポート」などなど、内容盛りだくさんでお送りしています。ぜひともチェックしてくださいませ。